

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	医療法人社団 高台病院 グループホームはしどい	評価実施年月日	平成19年12月15日～平成20年1月31日
評価実施構成員氏名	今 美乃 土橋 和江 桜庭 博美 山下 美樹 土居 裕見子 沢里 大介 田中 涼子 阿部 伸子		
記録者氏名	今 美乃	記録年月日	平成20年2月13日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「新しいわが家」をめざすことを理念の柱としており、地域の行事などにも参加して、地域の中でその人らしく暮らしていく事を支えている。はしどいの理念は、ご家族様や来賓の方々にもわかるよう玄関や各フロアーに掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関や各スタッフルームに理念が掲示してあり、毎月の会議等で理念を確認し、身分証の裏も記入するなどして理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	定期的な運営推進委員会等を通して理念を理解して頂くよう取り組んでいる。地域の商店への買い物や銭湯などを利用している。		
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所とのお付き合いは、とても大事な事柄であり、近隣の方とは外出時や日々の散歩の時に挨拶をしながらお互いに気軽に話すことができるよう努めている。		
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の銭湯に行ったり、スーパーなどを利用し交流を深め、町内会のお祭りにも参加して、地元の人々と交流することに努めている。		
6		事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議の中で看護師による救急救命法を実施したり、認知症についてのプリントを配布したりして取り組んでいる。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	要改善項目については、会議で職員全員を交えて意見を出し合い、直ちに改善に向けて取り組んでいる。 (記録の書き方、室温計の高さ、手づくりカレンダーの大きさなど)		
8	5	運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ご利用者のご家族様の代表も参加され、グループホームの説明や、年間行事などをお話し、率直な意見も聞いている。新たな意見や希望があれば取り入れている。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	札幌市管理者連絡会議や、研修等で情報の交流を行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。札幌市よりライラックの苗木を頂き、入居者様と一緒に植樹している。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	実際に制度を利用している入居者様もあり、支援している。		
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないよう注意を払い、防止に努めている。	外部での職員研修の中でも警察署員による虐待防止のカリキュラムが組まれている。受けてきた職員は持ち帰り会議等で発表している。職員の中に虐待防止は浸透している。又、入居者様への言葉遣いにも”自分の親だったら”という思いをいつも持ち、十分配慮している。		
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は十分な時間をとり説明している。また疑問・質問はすぐその場で聞いていただき理解を得ている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者からの意見・苦情等はすぐに緊急会議を設けて話し合 い、解決に取り組んでおり、ご家族に報告し、それらを運営に反 映させている。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をし ている。	毎月、月初めにご家族様に写真と共に手紙を送って様子をお知 らせており、受診や特変のあった場合、必ずご家族様に電話 で報告している。季刊であるはしどい便りも送付している。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ 表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	「皆様の声」という箱を玄関に設置しており、来訪時説明してい る。意見等があった場合は直ちに臨時会議を設け運営に反映さ せている。又、契約時に外部の苦情窓口があることも説明して いる。		
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている。	毎朝の朝礼時や毎月の会議において発言できる機会があり、 反映させている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努 めている。	その都度、変化が起きた時に柔軟な体制で勤務調整している。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けら れるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる 場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	行事等も常に各フロアー合同であるため、他のフロアーの職員 にも利用者は馴染みの職員が多くなり、安心に支援を受けられ る様になっている。又、異動や離職を必要最小限に抑える努力を し、代わる場合は、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	札幌市や道の研修など積極的に参加する様に働きかけ、順次研修を受けれるように確保して働きながらトレーニングしていく事を進めている。		
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	札幌市管理者連絡会議各区の集まり・札幌市の研修などに出席し、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	親睦会等でストレスの解消を図ったり、夏休みをとったり、業務上の悩みはその都度施設長・管理者に助言を受け、職員間で共有できるものは共有している。		
22		向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員個々の努力や実績・勤務状況を踏まえて更なるステップアップを促し、それを達成した時は会議等で発表し、職員間で喜びを共有するように努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	ご本人が困っていること・不安なこと等をご本人の会話の中からや職員との声がけなどの中から傾聴する様に日頃より努力している。		
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。	ご家族様と現在困っていること・不安なことなど求められていること等をよく聴く機会を作り、要望があれば何度でも聴く機会を作り、受け止める努力をしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>施設長・管理者・ケアマネージャーで会議等を持ち、ご本人とご家族様がまず必要としている支援を見極め、十分話し合い対応するように努めている。</p>		
26	12	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>施設内見学は希望される日に自由に見学できるようになっており、ご家族様よりお話を十分に伺いながらご本人が徐々に馴染めるように体験入居も実施している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>昔の話を聞き、一緒に懐かしんでご利用者の人生を尊重しながら会話をしている。またニュースになっている事も取り上げ話し合い共有している。個々のリズムに合わせ毎日穏やかに過ごしていただけるように支援している。又、レクリエーションの中や、掃除・買い物・食事の準備を行い、助け合ったり、協力しあう場面で喜怒哀楽を共にしている。</p>		
28		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>小さな事でもご家族様と相談して決めるようにしている。個々の性格を見極め、面会時や電話などでご家族様の意見を聞いて支援している。敬老会にも参加して頂き、ご家族様との交流を深めていく機会を設けている。</p>		
29		<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>ご本人とご家族様の思いをスタッフが受けとめて、ご本人の気持ちをご家族様に代弁することもある。また、ご家族様との外出・外泊や電話の取次ぎなどを支援している。面会は自由にでき、良好な関係を持って頂けるように支援している。</p>		
30		<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>お手紙や電話などで途切れないよう、ご家族様のご協力を得ながら支援に努めている。</p>		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	集団レクリエーションなどでご利用者同士が関わる機会を持つようにしている。折り合いの悪い入居者様が接する際は、スタッフが間に入り対応している。個々の良いところを生かし、お互いに支えあって生活していけるように支援している。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	季節のお便り等により、継続となる関わりを必要とすることをご利用者やご家族様には関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の生活感を尊重し、ご本人の希望、意向の把握に努めて、良くお話を聞いて安心して穏やかに過ごせるよう努めている。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個人の生活歴を大切に、ご家族などからのご本人の馴染みの暮らし方・生活環境・これまでのサービス利用の経過等のお話を伺い、把握に努めている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご利用者の担当スタッフも含め、申し送りやカンファレンス等で意見を交換し、情報を共有している。一人一人のペースに合わせて心掛けていく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式を取り入れ、ご本人中心の介護計画を作成している。ご家族様には文書や電話などにより、又は面会にいらした時にお話を伺ったりしている。担当者や他のスタッフにはモニタリングやカンファレンスの中からの意見やアセスメントシートを通して共有し計画作成をしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	現状に即したものを担当者・ケアマネージャーを中心にその都度検討し、ご家族様にもお話して計画を作成している。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録にご本人の言葉を記入したり、個別に支援経過記録をつけ、その記録が共有され介護計画の見直しにも活かされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			ご本人やご家族様の状況、その時の要望に応じて、ショートステイなども検討中である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域の消防署員の方の協力を得て、救命処置の訓練(心肺蘇生法とAEDの使用手順)を実施しており、ご本人の意向や必要性に応じて、支援している。		
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ケアマネージャーは道や市の主催する研修を受け、他の地域のケアマネージャーと交流し意見交換や情報を得て施設長に報告している。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターの主任ケアマネージャーの方に運営推進委員会に参加して頂き、お話をいただいている。		



自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	18	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	高台病院が母体であり、ホーム内に常勤している看護師と病院の医師・看護師との連携がとれている。他のかかりつけの病院へはホームの看護師が医師へ現状の手紙を書いて連携をとっている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	グループホームの母体が医療機関(高台病院)のため、相談体制は確保されており、受診もスムーズに出来るように支援している。		
45		看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホーム内に看護師が常勤しており、ご利用者をよく把握している為、安心して相談でき指示が受けられ、細やかな健康管理ができており、母体の高台病院との連携もとれている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	管理者やホームの看護師が中心となり、病院関係者と連絡を取り、早期退院に向け相談している。またスタッフは退院前の利用者の情報を申し送り等で共有している。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合は、出来るだけ早い段階からご家族様やかかりつけの主治医と十分に話し合い、全員で方針を共有しており、施設等の紹介の支援をしている。		現在は終末期については対応していないが、検討していきたい。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極めながら、ご利用者の状態変化に備えてかかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49		住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住替えによるダメージを最小限に食い止めるため、入居先のケアマネージャーとの連携に務め、情報交換を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	各居室には鍵がかけられるようになっており、個人のプライバシーは守られている。またスタッフはプライバシーに配慮し、失禁時などは目たさないよう居室で対応している。個人情報の守秘義務は守っており、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ご利用者の分かる力に合わせた説明を行い、常にご利用者の方のペースに合わせ、ゆっくりとお話してご本人の思いや希望をお聞きして自己決定出来るように言葉がけをしている。		
52	21	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の生活ペースを乱すことなくご利用者が無理をせず一人ひとりのペースを大切に、毎日穏やかに過ごせるよう、よくお話を聞き支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご利用者の希望に沿って定期的に訪問理美容を支援している。日常過ごされるときも季節に合わせたお洋服や色づかいが出来るよう支援し、外出時・行事時など身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者の体調に配慮しながら茶碗拭き等のお手伝いをして頂いている。料理は好みを取り入れ、色彩りも豊かにし、見た目にも楽しめるよう工夫している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご利用者の方から好きなものについてお尋ねしたりしながらおやつ時などに希望が叶うように支援し、おやつは献立に沿い、毎日違うものを出している。飲み物は好みもあるので、希望のものを支援している。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンをスタッフ全員が理解し共有している。尿意・便意のない方には定期的に声をかけ、見守りをするなどその方にあった方法で支援し、プライバシーにも配慮している。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日はご本人の希望を取り入れており、温度・回数など身体状況に配慮している。また、ゆったり時間をとりご利用者が気持ち良いように、入って良かったと思ってもらえることを心掛け支援している。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	夜間の巡回を通して安心安全に休まれるよう見守りし、眠れない方には話し相手になり、温かな飲み物を飲んで頂くなどして安眠出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ご利用者の得意なこと・興味のあることなど取り入れ、午前・午後に毎日違うレクリエーションを実施するなどして楽しんで頂けるよう工夫している。又、ご利用者の方の役割作りや協力しあえる場面作りなどを支援し、個々の体調を見ながら買い物に一緒に出かけたり気晴らしの支援をしている。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	日常の金銭管理ができる方はいないが、希望される方は居室内に所持している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日の食材のお買い物に同行していただき、食材を選んでいただいたり、天気の良い日は散歩に行ったり、ホームの畑で草むしりや取入れなどをしていただいている。 ご家族様との外出がなるべく多く出来るように支援している。		毎日、ご自分の物を買いに外出を希望される方がいるが、希望通り支援できない事もあり、ボランティア等も考慮中である。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別の外出希望に関してはご家族様の協力を得て、一人ひとりの希望が叶うように支援している。		
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご利用者が希望した時は、すぐに電話がかけられるようになっており、ご利用者の気持ちが不安定な時などご家族様の声を聞いて安心して頂くなど支援もしている。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも自由に訪問できる。訪問時はリビングや居室で楽しそうに会話をしている。スタッフもお茶を出し、ゆっくりされるよう声がけをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、スタッフ全員が決して身体拘束をしないことを認識しており、そのケアを実践している。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関・エレベーター・階段の出入り口等にセンサーがあり、センサー音で察知出来るので鍵をかけないケアに取り組んでいる。日によっては、帰宅願望の強い方もいるので、危険防止のためやむを得ず階段出入口のみ施錠することもあるが、ご家族様の同意は得ている。居室についても鍵をかけることはない。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67		<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>ご利用者のプライバシーを尊重しながら、日中は3名で、夜間は巡回をしてスタッフは常に細心の注意を払い、安全に配慮しながら見回している。過ごしやすさと安全を第一に考え、見守りしている。</p>		
68		<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>怪我のないようにハサミなどの刃物を使用する場合は目の届く所で使用して頂き見守りしている。また、調理用の刃物や洗剤は決まった所に保管し施錠している。</p>		
69		<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>転倒があれば事故報告書を作成し提出している。事故の原因を振り返り、会議等で問題点を話し合い防止に取り組んでいる。</p>		
70		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>職員の中にいる看護師による応急手当の研修を毎月の会議後受けている。</p>		
71	27	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回の防災訓練にご利用者も参加して頂き、職員は消火器の使い方などの訓練も行っている。</p>		
72		<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>	<p>入居時にご家族様に今後起こり得るリスクについて説明し、状況の変化があった時はその都度連絡を取り説明し、その対応策についても話し合っている。</p>		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックを欠かさず行っている。何か変化があれば施設長に連絡し、看護師からも指示をもらい早期に受診している。支援経過記録に記入し、申し送りでも口頭で伝えスタッフが共有し対応できるようになっている。		
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフは処方箋に目を通し確認している。薬の管理はスタッフがしており、2人チェック体制になっている。ご利用者が服用時も声に出して氏名を確認している。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々の排便の有無は毎日必ずチェックしている。水分不足の利用者には食間にも声がけし摂取をお願いしたり、運動を一緒にするなど対応している。		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ご利用者の状態により洗面所に誘導して、一部介助や声がけ見守りなどして1日3回食後に口腔ケアを実施している。また、週に1回義歯の消毒も行っている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	きざみ食やお粥など状態に合わせ支援している。ケアチェック表で水分量を把握し、必要量は確保している。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがあり、予防や対応の取り決めがあり、スタッフ全員熟読しており、日常はうがいや手洗い消毒を励行し、予防に努めている。インフルエンザの予防接種は入居者様とスタッフ全員がしている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板・ふきん等調理用具を毎日消毒している。また調理者も手洗い・消毒し、必要時消毒剤も使用している。食材は毎日新鮮で安全なものを購入している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関先や玄関内に季節の花が置かれ、明るい雰囲気にしてあり、玄関はバリアフリーになっている。玄関周りは、ロードヒーティングになっており、冬場は滑らないように配慮されている。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビング内に季節の花や季節行事の置き物が置いてあり、家庭的な生活空間になっている。レースのカーテンなどで採光なども配慮している。</p>		
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングソファでテレビやビデオを皆さんと鑑賞したり、食卓や廊下の椅子で利用者同士会話するなど思い思いに過ごす団らんのある場所がある。</p>		
83	30	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご家族様やご本人の希望により、居室内に大切な仏壇や馴染みの机を置かれるなど使い慣れたものを活かし心地よく過ごされている。</p>		
84		<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>毎朝、空気の入換えを行うなど換気に気をつけている。また、リビング内には温度計・湿度計を掛け、冬期は加湿器を使用し調節している。</p>		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>廊下・トイレ・浴室には手すりがついており、それを使用して頂くことで自立支援に繋がっている。居室内や廊下は絨毯張りになっており、すべりにくい工夫がされており、バリアフリーになっている。</p>		
86		<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室ごとに氏名が書かれており、ご自身ののれんも下げており目印となっている。なるべく自身で判断されるよう声かけ見守りをしており、リビングに手作りの大きなカレンダーがあり、時計も見やすい大きなものをかけている。</p>		
87		<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>畑作りの得意な利用者を中心として、敷地内に花や野菜を植え、一緒に収穫するなどして活動の場になっている。</p>		



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に 印をつけること)
		印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様が毎日楽しく穏やかに、ご健康で暮らしていただける様、本当のご家族のように思い、接させていただいております。

はしどいの理念の中にあるように、“自分の親だったら” “自分の祖父母だったら” といつも思い、入居者様と接することが大切なことであり、職員全員が毎日入居者様と共感し、受容しながら実践しています。

お食事は心や体を健康でいきいきさせるすべての基になる事ですので、食材は吟味しており、彩りよく盛りつけられた手作りの美味しいお食事をお出ししています。

職員の人柄は皆本当に優しく、“はしどいの宝” と職員にいつも話しており、仕事に取り組む姿勢が非常に前向きで、資格などを取って勉強しています。